



滋賀短期大学 学 報

2014. 12. 1

No. 76

〒520-0803 大津市竜が丘24-4 滋賀短期大学 広報・図書委員会 電話(077)524-3605

ホームページアドレス <http://www.sumire.ac.jp/tandai/>

第45回純美禮祭

2014年11月8日・9日



短期大学の教育研究を通じた地域連携の取組

滋賀短期大学学長 佐藤 尚武



高等教育機関においては、教育と研究を軸にした充実に加え、教育研究を通しての地域貢献が求められています。特に、地方の短期大学にとっては地域に根ざした教育研究機関として、その資源を地域に開いていくとともに、地域の課題解決に向けての協同体としての役割を担うことの重

要性があります。本学においても、その体制づくりのもとに地域連携を推進させようとしていますが、これらの連携活動へのご理解とともに、今後の連携へのご支援やご協力をお願いする次第であります。

(1) 地域連携の体制づくり

本学では、平成14年に乳幼児総合研究所が地域との連携を踏まえて設置されました。乳幼児保育教育の向上に資するために、保育研究会、子育て支援の「すみれがーでん」、子育て相談室などを軸に展開されており、学生の学びの場としても活用されています。これまでの活動は、平成26年3月に刊行された「乳幼児総合研究所10年の歩み」にまとめられています。

教育研究を通して全学的な地域連携を図るために、平成24年に地域連携教育研究センターが設置されました。地域との連携の窓口機能を含め、自治体や企業等との連携による教育研究を推進させようとしています。平成26年2月には「地域連携年報」が創刊され、毎年地域との連携活動をまとめることになっています。

平成25年度の私立大学等改革総合支援事業において、本学は「特色を発揮し、地域の発展を重層的に支える大学づくり（地域特色型）」の支援対象校に選定され、補助金を受けることができました。この補助金によって、乳幼児総合研究所の活動の場として「子育て支援教育プレイルーム」が整備され、多様な活動が展開できるようになっています。また、地域連携教育研究センターも各種の活動に対応できるように整えられています。

(2) 公開講座の開催

本学の主催する公開講座は、地域に開かれた講座として、3つの枠組みのもとに毎年開催されています。一つ目は教養講座であり、第1回の開催は昭和62年です。本年は、第28回の講座として開催されました。二つ目は、ステップアップ講座です。平成16年に始まり、本年をもって第11回の講座となりました。三つ目は子ども講座であり、本年は第8回の講座として開かれました。

これらの公開講座に加えて、滋賀医科大学との連携講座があり、平成21年から毎年開催されています。この講座は講演の部（滋賀医科大学が担当）と調理の部（滋賀短期大学が担当）で構成されており、本年は8月に「骨粗鬆症－骨を守るために－」のテーマのもとで開かれました。

(3) 地域との連携による教育研究の推進

まず、開発研究に関わるプロジェクトがあります。生活学科では、栗東市の特産であるエゴマの商品化に向けて、栗東市および栗東市シルバー人材センターとの連携事業に取り組み、平成24年にはエゴマドレッシングなどが販売されるに至っています。また、滋賀県警察本部交通安全課との連携事業があります。高齢者の夜間の交通事故防止を目的に、平成24年から反射剤を使用した服飾の開発研究に取り組んでいます。幼児教育保育学科では、地域の多文化共生の視点から、平成25年から外国人学校の児童の造形表現活動を通して教育課題に向けての取組を進めています。ビジネスコミュニケーション学科では、地域共生型社会推進事業の助成を得て、平成26年から大津高齢者産業クラスター形成プロジェクトのもとに研究を始めています。

次に、各学科の教員の指導のもとに、学生と一体となって取り組んでいる教育研究活動があります。定期的あるいは特定の期間における主な活動としては、名神高速道路大津サービスエリアにあるびわこ近鉄レストランとのコラボによる滋賀の地産食材を用いたメニュー開発などがあり、学生サークルの「キッチン&キッチン」が参加しています。また、このサークルは滋賀県立びわ湖子どもの国において子ども料理教室にも関わっています。大津プリンスホテルとのコラボでは、学生サークル「ベーカーリー塾」がケーキの制作やストロベリーフェアーなどの開催に関わっています。学生サークルの「子どもアートクラブ」は、大津パルコで開催されているアート体験教室をサポートしています。学生ボランティアサークルの「れいんぼう」は、大津市平野学区の寺子屋プロジェクトにおいて支援活動をしています。

(4) 地域移動型教育講座（地域移動講座）の試み

新たに始まる連携事業として、地域移動型教育講座（地域移動講座）があります。これはリカレント教育の一環でもあります。教養的内容と専門的内容を組み合わせ、滋賀県の市や町との連携のもとに、本学の教員が各地に出かけて講座を開きます。本年は11月に高島市で、12月には甲賀市で開催しますが、この講座は来年度から本格的に滋賀県各地で展開することになります。

ビジネスコミュニケーション学科実習報告

病院実習を終えて

ビジネスコミュニケーション学科 ホスピタリティビジネスコース 2回生 岩崎 志保



2日間の病院実習が、夏休み期間に行われました。私は大津市民病院で、医師事務作業補助者の仕事を体験させていただきました。

実習前のオリエンテーションでは、大津市民病院についての詳しい説明や実習の内容を聞き、実習が楽しみな反面、不安や緊張の気持ちでいっぱいになりました。

実習では、泌尿器科などのブロック受付で、医師事務作業補助者の方2名に、仕事内容やその流れを教えてくださいました。午前中は、主に外来業務をさせていただきました。予約の方の確認や変更、当日予約の方の問診票の作成、診察前検査の入力、検査の予約変更などを行いました。外来業務は思っていた以上に忙しく、仕事量の多さに驚きました。午後は、様々な診断書を作成しました。診断書には多くの種類があり、患者様一人一人異なるので、大変な作業でした。

2日間の実習を終えて実感したことは、病院では事務の仕事でも、医療用語を始め医療についての知識が必要だということです。私は、医療事務者や医師事務作業補助者として仕事をするのを志望しており、今回のような貴重な体験が出来たことは、自分の中でとても大きな財産となりました。夢に見ていたような仕事ばかりではなく、大変なことも多かったのですが、より一層やりがいのある仕事だと感じました。卒業後は、医療機関で医療事務員として働くことが決まっていますが、この実習での経験を活かし、思いやりのある心をもって、患者様一人一人に寄り添うことができる医療事務員となれるよう努力していきたいと思います。

病院実習を終えて

ビジネスコミュニケーション学科 ホスピタリティビジネスコース 2回生 若林 綾乃



日本医師会認定医療秘書の資格取得のために、2日間の病院実習をさせていただきました。実習は、医師事務作業補助者という職種の方のもとで行いました。

1日目は診察室に入り、オーダー入力や、次回診察、手術などの予約管理を行っているところを見学しました。一見簡単に見えますが、ミスなく行うことや、役割の権限を越えないよう注意することなど、責任を持って行わなければならないと強く感じました。また、ミスを防ぐために、診療目的に合う診療項目を記した「診察セット」を作成したり、手術日や病名を記入するメモを作成したり、様々な工夫をされていました。

1日目の午後と2日目は、診断書作成を体験させていただきました。診断書については、授業ではまだ学んでいないのですが、実際に作成することにより、どのようなものなのかを理解することができました。また、診断書は加入している保険会社に給付金等を請求する際にも必要な書類だと教えていただきました。正確に作成しないと依頼者がきちんと給付金を受け取れないことがあるので、カルテや会計を見て慎重に作成しなければいけません。診断書には多くの種類があり、それに手早く記入するためのフォーマットを作り、それに沿って入力するという工夫をされていました。

医師事務作業補助者の行う業務はあくまで医師の代行であり、医師は医師事務作業補助者を信頼して仕事を任せているので、その信頼にこたえること、そして医師の負担を減らし、患者様の待ち時間を軽減する役割を担っていることを教えてくださいました。

今回の実習を通して、人の役に立つ人になりたいと強く思いました。2日間という短い期間でしたが、この経験を今後活かしたいと思います。

生活学科実習報告

給食経営管理学外実習を終えて

生活学科 食健康コース 2回生 高瀬 由奈

私は、京都市のこぐま保育園で5日間の実習を行いました。初日は緊張と不安で一杯でしたが優しく丁寧にご指導していただき、すぐに現場に打ち解けることができました。実習では、離乳食と幼児食の調理と盛り付け、給食の提供をさせていただきました。約90人分の給食は栄養士1名、調理師2名で調理を行います。給食の提供が終わるとおやつの準備、食器の片付け、食材の発注、献立作成の作業を担当して行います。

事前課題は、和食を中心とした幼児の献立とカルシウムを手軽に摂取できるおやつ作成でした。学校で何度も試作に取り組み、子ども達が喜んでもらえそうな献立になりました。自分の献立が給食として園児に提供できたことはとても嬉しかったです。園児と一緒に給食をとらせてもらうこともできました。たくさんおかわりをしておいしそうに食べてくれる園児の姿を見ることで、今までの苦勞も吹っ飛ぶ気がしました。

保育園の栄養士は、食を通して子ども達の成長に立ち会

うことのできる素敵な仕事でとても充実したやりがいを感じました。

子どもたちが健康で元気に成長できる食事作りができるように、さらに勉学に励んでいきたいと思っています。



給食提供に使用した事前課題献立

教育実習を終えて

生活学科 生活クリエイトコース 2回生 増田 美希

私は中学校へ3週間の教育実習に行きました。学級担任として3年生のクラスを担当し、授業は2年生のクラスを担当しました。

学級担任として関わった3年生のクラスは学級として見ればとてもまとまっているクラスでしたが、個々の生徒たちを見てみると、高校受験などを控え将来に対して不安や悩みをもつ生徒が多くいるように感じました。そこで私はそのような生徒に積極的に声をかけ、話をする中で少しでもその子の支えになれるよう努めました。そのようにして声をかけていくうちに次第と生徒たちから相談を受けるようになり、コミュニケーションをとることの重要性や人を思いやる優しさの大切さを実感することができました。

また2年生のクラスに対しては、生徒の興味・関心を引き出す発問をし、生徒自身が考えることができる授業をすることを目標に授業実習を行いました。少しでも生徒が興味をもつことができるよう、いかに身近なことに引きつけて説明をするかなど、普段は意識しないようなことを考えました。授業の回数を重ねるうちに生徒も私の方を見るよ

うになり、質問に対して考え答えてくれるようになりました。このことから、授業は教師一人で作っていくものではなく、生徒と一緒に作っていくものだとことを学びました。

私が教師になった際には、教育実習で学んだことを生かして生徒の支えになれるように努めたいと思います。



幼児教育保育学科実習報告

幼稚園実習を終えて

幼児教育保育学科 2回生 黒井 絢子

2回生の9月に行かせていただいた幼稚園実習は、私の短大生活の中で最後の実習でした。最終日には設定保育や一日保育をすることが決まっていたこともあり、あと半年後には現場に立つ保育者として気を引き締めて実習に取り組みました。普段は大学の講義を受ける側として椅子に座っていますが、実習では「先生」として子どもたちの前に立つので、言葉遣い、立ち居振る舞いに注意することで緊張感を持って子どもたちと関わっていききました。

設定保育では、子どもたちの月齢による発達に合わせた保育の内容と、支援を必要とする子、その活動が苦手な子、その活動をやりたがらない子に対する配慮事項、子どもたちが自分で選んで遊べる環境構成などを細かく指導していただきました。指導案があつての保育だ、と教えていただきましたが、指導案を作成し、実際に保育をしてみると自分では予想していなかったことが起きてしまうこともあり、自分の勉強不足、そのような時の臨機応変に対応することの大切さを感じました。活動の計画や事前準備は大変でし

たが、子どもたちが楽しんでその活動に取り組んでくれたことは嬉しく、やってよかったと思えました。

実習を終えたあと、自分では気付くことができていなかったことを指導していただき、設定保育や指導案の書き方など反省すべきことはありましたが、実習を通して様々なことを教えていただき充実した実習となりました。



保育実習を終えて

幼児教育保育学科 2回生 岩出 美香

8月の保育実習では2歳児と3、4、5歳児の合同クラスに1週間ずつ入らせていただきました。幅広い年齢と関わることができ、その中で責任実習や部分実習をさせていただいたことは自分にとって良い経験になりました。また実際に子どもの前に立って『先生』と呼ばれたことは先生としての立場を感じることで嬉しく思いました。それと同時に子どもの命を預かることや子どもにとって大事な時期に関わることへの責任を感じました。責任実習を経験する中で、私は自分で保育を進めることの難しさを実感しました。2歳児クラスの設定保育では色水遊びをしました。『色の変化を楽しむ』というねらいを達成したい思いが強く子どものイメージや想いに寄り添う余裕を持つことが出来ませんでした。しかしこの失敗から子どもの立場に立つことや、子どもの姿や気持ちに寄り添う保育を行う大切さに改めて気づくことができました。また、私が行った保育の中で子どもたちの笑顔を見ることが自信に繋がりました。

子どもたちが『今日は楽しかった。』と私に言ってくれたことが本当に嬉しく思いました。指導案を立てて保育を進めることは大変でしたが学ばせて頂きとても自分のためになりました。これらの経験を生かし、より学びを深めていきたいと思っています。また私の理想とする保育者に近づけるよう努力したいと思います。



49回全国私立短期大学体育大会

全国私立短期大学体育大会が9月1日から4日間にわたり開催されました。

本学からは、バレーボール（女子）、バドミントン（女子）、ソフトテニス（女子）、男子ソフトテニス同好会の学生が参加し大活躍しました。



大会結果

- ・バレーボール部（女子）…優勝（初）
- ・バドミントン部（女子）
 - 団体 優勝
 - 個人 ダブルス 3位 森山成実・武政友花
シングルス ベスト8 上田優利愛
- ・ソフトテニス部（女子）
 - 団体 準優勝
 - 個人 ダブルス 優勝 佐田絢香・増田美希
準優勝 西村奈穂・廣本愛美
3位 池田彩弥加・遠藤理菜
- ・男子ソフトテニス同好会
 - 個人 ダブルス 優勝 須佐美博喜・寺橋朋広

バレーボール部（女子）

全国私立短期大学体育大会 初優勝

9月1日から東京の大田区総合体育館において、全国私立短期大学体育大会（バレーボール）が開催されました。昨年度は、決勝トーナメント2回戦で敗退し、ベスト8という悔しい結果でした。しかし、今年度は予選リーグから決勝まで順調に勝ち進み、決勝は昨年度敗れた武蔵丘短期大学。試合はフルセット（5セット）までもつれました。最終セットも、スコアは12-14でマッチポイントを先にとられ、苦しい展開でしたが、ここから一気に4点を連取し逆転をして、初優勝を飾ることができました。今年のチームは「まじめさ」をモットーに、林梨奈キャプテンを中心に丸となり、最後まで諦めないチームであったことが勝因であり、その結果、全国私立短期大学体育大会で初優勝をおさめることができたと考えています。



大会には、理事長、学長が大変お忙しい中、激励に足を運んでいただき、ここで改めて感謝の意を表したいと思います。これからも、部員一同が「バレーボールができる感謝の気持ち」を忘れずに、日々精進していくことを願ってやみません。

文責：バレーボール部顧問 山中 博史

ソフトテニス部（女子）

私達、ソフトテニス部は全国私立短期大学体育大会で優勝することを目標に日々練習に励んできました。

団体戦では惜しくも二位となり優勝を逃しましたが、個人戦では1位から3位を滋賀短期大学が占め、団体戦の屈辱を果たすことができました。

後輩に団体戦優勝という思いを託し、これからも練習に取り組んで行きたいと思いますので、今後とも応援よろしくお願いします。

文責：増田 美希（生活2）



バドミントン部（女子）

大会初日は団体戦でした。昨年敗れた武庫川女子短大との勝負が予想され、武庫川に勝つことを目標としてこの大会に望みました。チームが一丸となり全力でプレーした結果、見事、武庫川に勝利し、優勝することができました。優勝が決まった瞬間、みんなでハイタッチをして喜び合いました。宿舎に帰ってから興奮は冷めず、思い出に残る日となりました。実習や体調不良で行けなかった部員にも結果を報告し、みんなで勝ち取った優勝であると実感しました。団体戦に優勝したということで、チームの団結がより一層深まったと思います。翌日からの個人戦は、トーナメントの早い段階で強豪選手と当たってしまい、思うような結果が出せずに悔いが残ってしまいました。滋賀短バド部のメンバーが出ていない決勝戦を見るのは辛いものがありました。個人戦は悔いが残る結果となってしまいましたが、やはり団体で優勝したという経験は大きく、これからの関西学連リーグ戦でも、この団結力を発揮して頑張りたいと思います。来年も、これからも、全短で優勝し続け、団結力のある滋賀短バド部であって欲しいと願います。

文責：清水 真緒（生活2）



バスケットボール部（女子）

女子バスケットボール部は今年全国私立短期大学体育大会は関西リーグと日程が重なったため出場しませんでした。関西リーグ戦（2部）では1勝7敗で12位、入れ替え戦で3部降格と非常に悔しい思いをしました。今シーズン最後の秋季トーナメントでこの思いをエネルギーに変えて最終ベスト8で今シーズンを締めくくりました。1回戦の四天王寺大戦は本学で開催されたたくさんの学生や教職員の方まで応援に駆け付けていただきとても感謝をしています。3回戦の大阪教育大学はリーグ戦では20点差で敗退しましたが、今回2点差の接戦で勝利しリベンジを果たせました。準々決勝では上位校の京都学園に喰らい付いていきましたが惜しくも8点差で敗れました。最後の大会は非常に内容のある充実した大会になり、選手たちの成長を感じたシーズンでした。

文責：

バスケットボール部
顧問 山本 剛史



男子ソフトテニス同好会





第45回純美禮祭

2014年11月8日・9日

『Amazing!!～素晴らしい瞬間～』というテーマのもとに作り上げた第45回純美禮祭は、あっという間に終わりを迎えたというのが私の実感です。

今年は純美禮祭実行委員会を中心に学生みんなで準備を進め、成功のうちに終わることができました。ご協力いただいた皆様には、心から感謝いたします。

今年は、学生みんなで純美禮祭を作り上げることを目標にしてきました。実行委員会だけでなく、ゼミやクラブの方々にも協力していただき、みんながひとつになった純美禮祭になったと思います。学生のみながとても協力的で、どんな仕事にも一生懸命取り組んでいる姿に私は感動しました。幼児教育保育学科の皆さんが制作してくれた花飾りや輪飾りはとても素晴らしく、学内を華やかにしてくれました。また生活学科やビジネスコミュニケーション学科の皆さんには机出しや学内装飾など大変な作業をスムーズにいただき、例年より早く準備を終えることができました。さらに実行委員会のメンバーは本番が近付くにつれて忙しくなり、毎日遅くまで仕事をすることもありました。今年は例年の仕事に加え、ステージや模擬店位置の変更、新企画など新しい仕事もありました。新しいことばかりで手探りの中、実行委員会のメンバーと教職員の方々と何度も話し合いながら準備を進めてきました。意見がぶつかったり、うまくいかないこともたくさんありました。そんな時でもみんなで励まし合いながら、準備を進めていく日々はとても充実したものでした。

そんな良い雰囲気でも迎えた純美禮祭は学科発表や有志発表など各イベントが大盛況だったと思います。1日目には子どもたちが多く訪れて、ゲストのMr. オクチさん（大道芸人）のショーや幼児教育保育学科の劇や体操を喜んで見てくれたと思います。2日目は天候が悪いにも関わらず、多くの方に参加していただきました。吉本芸人さんのお笑いライブ、生活学科やビジネスコミュニケーション学科の発表も大変盛り上がりしました。無事純美禮祭を終えることができたのは、学生だけでなく、教職員の皆様のご協力のおかげだと感じています。純美禮祭に来てくださる方々に、少しでも楽しんでもらえるようにと、頑張った2日でした。

純美禮祭を通して感じたことは、大きなイベントを成功させるには特定の人の力だけではなく、みんなの協力が必要だということです。準備や本番のどの過程も1人では乗り越えられなかったと思います。実行委員会のメンバー、教職員の皆様、学生のみならず、そして快く協賛して頂いた広告主の皆様、また地域の方々など多くの方々の協力のもとに準備を進めることができました。本当にありがとうございました。また純美禮祭を通して多くの方々と関わることができ、皆様と過ごした日々が私の「素晴らしい瞬間」となりました。

今年のテーマには、『今、ここにいることの素晴らしさ』という意味も込められています。来年またここで素晴らしい瞬間に出会えるように、後輩たちにはより良い純美禮祭を創り上げられるよう頑張ってくださいと思います。この素敵な滋賀短期大学の純美禮祭がこれからもずっと続いていくよう祈っています。

第45回純美禮祭実行委員会 委員長 水本 有紀
(幼児教育保育学科2年生)



平成26年度 美しい日本語コンクール

テーマ：近江文化を通して、美しい日本語を学ぶ



本学学生を対象とした“美しい日本語コンクール”が、今年も開催されました。

朗読部門9名、読み聞かせ部門28名(組)、そしてエッセイ部門には47名の学生がエントリーし、次のような結果となりました。

このコンクール参加を機として、近い将来一社会人として活躍すべく、さらなる国語能力と表現能力の向上を目指してほしいと思います。

文責：広報図書委員 准教授 柚木 たまみ

審査員【朗 読 部 門】清水たま子特任教授 柚木たまみ准教授

【読み聞かせ部門】小野清司附属幼稚園園長 安井恵子特任准教授 柚木たまみ准教授

【エッセイ部門】今関信子先生 大山和哉先生

【朗 読 部 門】入賞者

最優秀賞

西田 栄美(生活1)「僕等がいた」

学 長 賞

松川 千紘(幼教2)「だれも知らない小さな国」

優 秀 賞

酒巻 香(ビジ2)「月夜と眼鏡」

江上 留奈(幼教1)「星の王子様」

【読み聞かせ部門】入賞者

最優秀賞

白神 幸(幼教2)「かぜのでんわ」

園 長 賞

辻出 唯(幼教2)「スイミー」

優 秀 賞

辻田 早紀(幼教2)「はじめてのおつかい」

西條 真豊(幼教2)「ぼくのかえりみち」

中本 麻美(幼教2)「あのね」

大島 明子(幼教1)「いいから いいから③」

生活学科長賞

北村 聡美(生活2)「串かつやよしこさん」



幼児教育保育学科長賞

川端 晴菜(幼教1)

「フレデリック ちょっとかわったのねずみのはなし」

ビジネスコミュニケーション学科長賞

柳 大樹(ビジ1)「さつまのおいも」

【エッセイ部門】入賞者

最優秀賞

千代 春菜(ビジ1)「草津について」

図書館長賞

奥出 麻実(ビジ2)「湖国三大祭」

優 秀 賞

小島 史織(幼教2)「うみのこで学ぶ」

南雲 涼子(幼教1)「赤くてぶるぶるしたあいつ」

松田 咲稀(ビジ2)「表情豊かな琵琶湖と比良山系」

鍵田 菜月(幼教1)「魅力ある文化の発信」

井上 樹(幼教1)「スクリーンで知る滋賀県」

加藤 宏実(ビジ2)「近江の伝統工芸」

遠藤 理菜(幼教1)「なれずし」

三輪 夏生(ビジ1)「長浜曳山まつりについて」

河口 彩奈(生活1)「近江の伝統食」

大倉 佳奈(生活1)「彦根のシンボル」

中井 鈴華(幼教2)「青い目の近江商人」

エッセイ部門最優秀賞作品

「草津について」

ビジネスコミュニケーション学科1年生 千代 春菜

私は草津に住んでいます。草津というと群馬県にもあります。他の県にも草津があるのにどうして草津という地名をつけたのかずっと疑問に思っていました。それで草津について調べてみました。

昔、草津は東海道五十三次の五十二番目の宿場でした。草津の宿場町は、安土・桃山時代に織田信長・豊臣秀吉の時代からぼつぼつと整備され、徳川家康が江戸幕府を開いた慶長六年頃から草津が宿場町として整備されました。東海道と中山道の合流点である草津は陸上の港として発展を遂げました。草津というところは、陸地において、物と物、人と人が行きあう処でした。草深い地の港、草深い陸の津というところから地名ができたそうです。つまり、「草＝陸上」、「津＝港」で

陸上の港という意味です。地名の由来について知らなかったのですが、調べてみておもしろいと思いました。余談ですが、全国に草津という名前がついている地名は、なんと五ヶ所あるそうです。草津という地名がついているところが多いのは意外でした。調べていて初めて知ったのですが「急がば回れ」ということわざの語源は草津にあるそうです。当時、旅人が京へ向かうには、草津の矢橋から琵琶湖を横断する水路の方が瀬田の唐橋を通る陸路より近くて早いのですが、比叡山から吹き下ろされる突風により、危険な航路でした。そこで「武士(もののふ)の矢橋の船は早くとも急がば回れ瀬田の長橋」という歌がうたわれたそうです。有名なことわざの語源が身近にあったことに驚き、世間は狭いものだと思います。

草津についていろいろ知ることができておもしろかったです。草津についてもっと知りたいと思いました。草津の歴史や地名などを大切にしていきたいと思います。

◆今関信子氏講評

歴史を調べ、語源を調べ、全国にも目配りし、と展開が面白い。

私の青春時代

時には昔の話を

先日「私の青春時代」というテーマで、学報の原稿依頼があり、若いころを思い出すために、久々に昔のアルバムを開いた。若いころは、ほとんどが山行の写真ばかりだが、懐かしさのあまり、しばらく原稿のこととも忘れ見いていた。ページをめくるたびに、加藤登紀子さんの「時には昔の話を」の歌が、私の頭の中に広がり胸がいっぱいになった。

この歌は、宮崎駿さんの映画「紅の豚」のエンディング曲なので、ご存知の方も多いと思う。「お金がなくとも、何とか生きてた、貧しさが明日を運んだ」「嵐のように毎日が燃えていた、息が切れるまで走った」という歌詞など今聞いても、そのころを思い出して胸が熱くなる。その頃の私は、



生活学科 特任教授 金丸 政義

山のことばかり考えていて、山から下りれば次の山行を考え、そのためだけの日々を過ごしていたように思う。気の合う十人足らずの仲間で山の会を作り、夏山の岩壁に、冬山の氷壁にと、困難を求め、挑むことが生活のすべてだった。

でもその中でかけがえのない仲間もできた。その後、当時はやや封建的で修行という言葉の残る、料理や製菓製パンの世界に入り、仕事をやり続けてこれたのも、その時の経験があればこそだと思い、あの青春時代に感謝している。

つい先日、その山の会が創立45周年の会を開き、なつかしい面々と、昔を熱く語り合い楽しいひと時を過ごした。

これからも、私はあの歌のように、

「見果てぬ夢を描いて、走り続けていたい」

と思う。

私の青春時代

私のこれまでの人生を振り返ってみると、のらりくらりと、何とか生きてきたという印象だ。高校時代、「俺はやればできるんだ」と根拠のない自信を持っていた。しかし、ろくに勉強しなかったために大学に入るのに2年も余分にかかってしまった。大学4年のとき、大学教員だった父に大学院に進学することを強く勧められたが、やはりろくに勉強もせずに受験し、あえなく不合格。その年の12月、父は10年間患った癌で亡くなった。

大学卒業後、地元名古屋で銀行に就職し、5年間働いた。厳しいノルマに追われながら、もっと楽しく働けないものだろうか、働くとはどういうことなんだろうか、ということについて知りたくなり、大学院で人的資源管理を勉強することにした。

修士課程、博士課程と進み、非常勤講師をやりながら、本学に採用されるまで、結局13年もかかってしまった。当時、ある程度の蓄えはあったが、生活するにはもちろん足らず、年金生活の母に頼っていた。母は特に文句も言わなかったが、内心私がどうなるか不安に思っていた

ビジネスコミュニケーション学科 講師 江見 和明

と思う。私が本学に就職した年、母はアルツハイマー型認知症と診断された。

私は昨年結婚し、今年娘が産まれた。しかし残念ながら、母は、私が息子であることもわからなくなってきており、妻や娘のことも理解できないでいる。ただ救いなのは、母が小さな子どもが大好きで、嬉しそうに娘を抱いてくれることだ。

私がのらりくらりとしていたために、全く親孝行ができなかった。でも、過ぎたことを悔やんでも仕方がない。これからを青春時代にできるようにしていきたいと思う。



「孫を抱く母」

新入教員あいさつ



歴史ある地域に赴任できまして、とても嬉しく思います。

幼児教育保育学科 准教授 土屋 靖明

10月1日から着任しました土屋と申します。これまで東北地方など寒冷地での生活が長く、西日本で暮らすのは初めてですが、歴史と由緒ある地域の魅力に触れられて嬉しく思います。専攻は教育哲学思想というべきものでして、これまではフランスの哲学者ベルクソンを、主として〈生成としての教育〉の見地から考察してきました。現在

は、トマス＝ヒューズ『トム＝ブラウンの学校生活』(1857年)における西洋古典教育の様相を検討しています。御縁が御座いまして、近江の地に着任できましたので、郷土の歴史と文化についても学んでいきたいです。今後とも何卒、宜しく願ひ申し上げます。

保健室だより

「自分」ってどんな人？

保健室の入り口付近に「保健室図書コーナー」があります。保健室お勧めの本や学生のみんなからのリクエストで購入した本を並べています。その本の中で、最近よく読まれているのが「ホンネがわかる心理テスト」(西東社)という本です。

人間関係に悩んでいた、就職活動で履歴書の自己PRの部分が書けずに困っていた、たまたま友だちと一緒に保健室に来て見つけた、この本を手にする理由は人それぞれですが、読みながら「そうそう、あたってると思う」という言葉が発せられることがとても多いです。

自分のことは、自分が1番わかっているつもりだけれど、実は気づいていないことも多いそうです。「心理テスト」

学生支援課 主事 平田 綾子

では、今の自分の様子を客観的に知ることができるので、自分を見つめなおすことになると思います。

学生相談室には、専門的な心理テストもあり、カウンセラーと話をしながら、自分を知ることができます。自分のことが客観的に見ることができると、今度はこれからの生活で気を付けることやいろいろな場面での対応方法もカウンセラーと一緒に考えることができます。学生相談室の予約は保健室で受け付けています。

心理テストを使って、自分でも気づいていない自分を知ってみませんか？



クッキング教室

今年から、滋賀短期大学附属幼稚園の園児を対象に、放課後保育の時間を利用したクッキング教室を開催しています。小さい子どもでも簡単に作ることができるメニューを考え、一緒に作っています。園児4～5人に対して学生1人が補助に入り作業を行います。最初は園児に手を洗うことや順番を待つことを教えるのも大変で、戸惑うことも多かったのですが、学生も慣れて、子どもたちへの接し方、教え方がどんどん上達しています。また、毎回行った内容は、学生がかわいいレシピにして保護者に配付しています。今では年齢に合わせて火や包丁を使った教室を行うこともできるようになりました。普段、小さい子どもと触れる機会が少ない学生にとっては、貴重な体験をできる時間であり、自分の将来を考える一歩にもつながります。

生活学科 特任助手 木下 友理子

調理は危険も伴うので大変ですが、子どもたちの美味しそうに食べている様子や、実習後に家庭で実践していることを聞き、私たちの励みにもなっています。園児と学生の成長を願い、継続して活動をしていきたいと思っています。



同窓会だより

同窓会運営委員 田中 知恵子

同窓生の皆さまにおかれましては、益々お元気でご活躍のことと存じます。

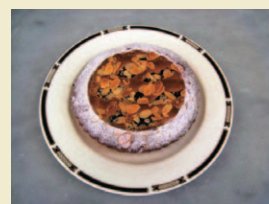
平成26年度同窓会の総会及び懇親会を7月6日(日)に滋賀短期大学内で開催しました。お忙しい中、ご出席いただきました会員の皆さま、教職員の方々、ありがとうございます。総会では平成25年度の決算報告をはじめ、すべての議事が無事承認されましたので、ご報告申し上げます。

総会の後は、製菓担当の金丸先生の指導により、昨年のイタリアのお菓子に続いて、今年度はオーストリアのお菓子「リンツァートルテ」に挑戦しました。男子会員は初めてのことでばかりで戸惑いながらもちょっぴり目覚めた？ようでした。助手の鈴木先生、砂原さん、ベーカリー塾の学生さんたちのお手伝いのおかげで素敵なケーキが出来上がり、今年も大好評でした。お世話になりました。さて、来

年はどの国のお菓子作りでしょうか？今から楽しみです！

懇親会は、学長先生をはじめ小山内先生、奥田先生、木谷先生にもご参加いただき、食堂で会食しながら恒例のビンゴゲームをしました。昭和49年度卒業生（4期生）から平成25年度卒業生まで年代を超えて交流し、和やかに楽しく過ごしました。

来年も一人でも多くの皆様が参加して頂けるのを役員一同心よりお待ちしております。



後援会だより

滋賀短期大学後援会 会長 木下 菜穂子

後援会会員の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は、後援会活動に対し、ご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。改めて心よりお礼申し上げます。

さて、11月8日(土)・9日(日)の両日に開催されました「第45回 純美禮祭」が盛大に開催されましたことを心からお祝い申し上げます。数か月前から純美禮祭実行委員会の皆さんを中心に、プログラムの企画、協賛・協力店の開拓、模擬店の勧誘、事前準備から後片付けまで、細部にわたりリーダーシップを発揮され、指示・運営・実行されたことに対して敬意を表したいと思います。

私達後援会役員は、2日目の9日(日)に模擬店の一角をお借りして、学園祭にお越しの来場者や学生の皆さんに「炊き込みご飯とお茶」の模擬店を出店させて頂きました。炊き込みご飯は米料理の一つで、五目ご飯、五目飯ともいい、関西では加菜ご飯、かやくめしとも言われています。米と一緒に炊き込むことで、材料の味をすべてご飯に吸収させ、

一度にご飯とおかずが食べられ、冷めても美味しいため駅弁にも使われることが多いそうです。日本経済バブル期以降、インスタント食品や冷凍食品・レトルト食品と言った半調理済みの食材が家庭の食卓に登場すると地域色や季節感に乏しい食卓に様変わりしていきました。しかし、バブル期以降「おふくろの味」のような料理を提供するお店も増え、コンビニエンスストアのお弁当も若者向けに味の濃いものが主流であったものも、炊き込みご飯や郷土料理と言った伝統食に回帰する傾向が表れているそうです。そんな中、農林水産省が調査した結果でもあるように、若者の野菜離れが問題視されており、その対策にも一役を担ったと思っています。



日本秘書協会主催「2014年度学生エッセイコンテスト」に入賞しました

ビジネスコミュニケーション学科 特任教授 清水 たま子

本学のビジネスコミュニケーション学科2回生 押谷華月さんが、日本秘書協会主催2014年度学生エッセイコンテストで、佳作に選ばれました。

「社会人になっても守りたいこと～私が私であるために」というテーマで、全国から669編の応募の中、1位、2位、3位が各1名、佳作4名の選考での入賞です。押谷さんには、協会から佳作の賞状と賞品が贈られ、学長からも賞状と賞品を授与されました。

押谷さんは、「この経験を生かして、社会人になっても、いろいろなことに挑戦していきたい」と感想を述べていました。



2014年度 公 開 講 座

教 養 講 座

広報・図書委員 特任講師 國崎 大恩

地域の方々を対象とした教養講座を2014年度も開催いたしました。今年度は趣の異なる3つの講座を準備し、2日間にわたる連続講座として延べ87名の方々にご参加いただきました。

第1日目となる10月14日(火)は、『無形文化遺産「能」「狂言」へのいざない～初心忘るべからず～』をテーマに、観世流能楽師の吉浪壽晃先生と大蔵流狂言師の茂山逸平先生に実演を交えながら講演をしていただきました。「能楽」の構成や楽しみ方、また「能」と「狂言」の表現方法の違い等をお話しいただき、間近で見る迫力ある演技を頭と身体の両方で楽しむことができました。

第2日目となる10月17日(金)は、『古典派といわれる時代の音楽と歴史』をテーマに、本学非常勤講師の遠藤玲子先生と本学幼児教育保育学科教授の奥田恵子先生にピアノ演奏を交えながら講演をしていただきました。その後休憩を挟み、本学ビジネスコミュニケーション学科教授の山中博史先生に『ウォーキングで認知症予防を！』をテーマとして正しいウォーキングの仕方や膝への負担の少ないノルディックウォーキングについて参加者の方々と



にも実践しながらご紹介いただきました。

『古典派といわれる時代の音楽と歴史』では、バッハやモーツァルト・ベートーベンといった私たちに馴染みのある作曲家の音楽について奥田先生からお話しいただき、遠藤先生より実際にピアノ演奏をしていただきました。その音楽の歴史などを知ることにより、聞き慣れた音色もまた違ったように聞こえました。『ウォーキングで認知症予防を！』では普段行っているウォーキングの方法を見直すことができただけでなく、ヨーロッパを中心に人気が高まっているノルディックウォーキングを体験することもできました。

来年度も多くの方にご満足いただけるような教養講座を開催したいと思います。



こ ども 講 座

広報・図書委員 准教授 深尾 秀一

本年度は、「こども陶芸教室」、「こども書道教室」、「こども英語教室」、「フラワーアレンジ教室」という4つのこども講座を開催しました。

こども陶芸教室は、3日間で作品を完成させる内容となっており、1回目は、粘土の技法を簡単に学ぶ、その後は思い思いの制作に取り組みました。一度は体験しようという事で電動ろくろにも挑戦。回転する粘土の感触や、形ができる、または崩れる楽しさを存分に体験しました。2回目は素焼の状態になった各々の作品に思考を凝らし釉薬を塗り、3回目には本焼きの終わった窯を開けて、焼きあがった作品をみんなで取り出しました。今年も、オリジナリティーあふれる世界に一つだけの素晴らしい作品がたくさんできあがったようです。

こどもの講座における陶芸教室は、平成19年からスター

トし、毎年夏休み中に地域の小学生を対象に行っています。夏休みという時間に余裕のある時に、土に向かい、遊び、そして自分自身を表現できるようなゆっくりとした日程を設定しています。また、子どもと保護者がお話しをしながら共同制作活動ができるのもこの講座の特徴です。

今後も、子どもたちの地域の学びの場の一つとして皆様のご意見を参考にしながら、こども講座を開催したいと考えております。



ステップアップ講座

広報・図書委員 准教授 深尾 秀一

本年度は、「書道教室」、「楽しく作るパンの時間 ～基本からヨーロッパ伝統パンまで（その8）～」、「銅版画教室 ～おもしろくてたまらない銅版画の魅力～」 「陶芸教室 ～焼き物再発見～」 「中国語教室 ～基礎から学ぶ中国語会話～」の5つのステップアップ講座が開催されました。

本学の金丸特任教授による「楽しく作るパンの時間」は8回目を迎え、23名の参加がありました。今年はフランスのパンの基本から応用までをマスターし、伝統的なパン作りを体験できる講座でした。初心者からベテランの方々が一緒になり、お互いにフォローし合える班構成で制作することになり、受講生同士のコミュニケーションが深まり、和やかに楽しい講座となりました。



湖陶焼長養窯の深田猛先生による「陶芸教室」では、参加者のほとんどが初めての方でしたが、初歩的なところから丁寧に指導していただき、最終日には、オリジナルティーあふれる作品が焼あがりました。

今年度初開催の銅版画教室は、本学の前川名誉教授にご指導いただきました。

5日間、銅版画に集中し密度の高い時間を過ごす講座となりました。最終日には各々の作品が仕上がり、また次への制作につながっていくものとなりました。

この本学のステップ講座は、今後も皆様のご意見等を参考に楽しくご参加いただける講座を開催していきたいと考えております。

滋賀短期大学・滋賀医科大学共催講座

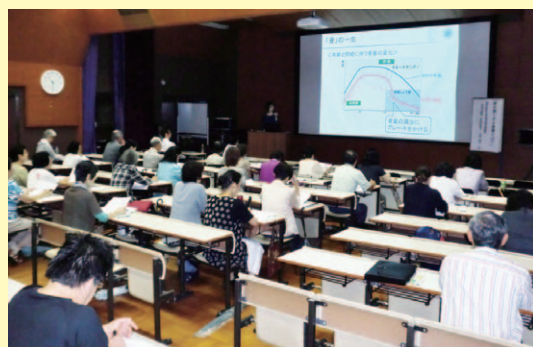
広報・図書委員 特任助手 木下 友理子

8月9日(土)、本学において滋賀短期大学・滋賀医科大学共催講座を行いました。当日は大雨のため足元が悪いにも関わらずたくさんの方に参加していただきました。午前の講演会は開催することができましたが、午後からは台風11号の接近のため中止となってしまいました。

午前の部では、「骨粗鬆症 ～骨を守るために～」をテーマにお二人の先生をお迎えしました。滋賀医科大学医学部附属病院整形外科講師の森幹士先生には「骨粗鬆症のお薬はいつ始めるの？」を、滋賀医科大学医学部附属病院栄養治療部管理栄養士の大井彰子先生に「骨を強くする食事とは？」についてお話ししていただきました。

参加された方々は熱心に聞いておられ、短い時間ではありましたが有意義な時間を過ごされていました。午後の部の「骨粗鬆症予防」をテーマとした調理実習では、朝は洋食、昼は多国籍料理、夕は和食で滋賀の伝統食の三食を一日分としスキムミルクを利用し、カルシウムを吸収しやすいレシピを工夫しました。おやつでは、カルシウムを簡単に摂取できるメニューを予定しておりました。

た。実際に作って食べていただくことはできなかったものの、参加予定者にはメニューのレシピをお渡しすることができたのでよかったです。レシピを渡した際に「ぜひ、作ってみたい」、「楽しかったので、次の機会を待っています」など、たくさんのお声掛けいただき、嬉しく感じました。講座開催のための試作や当日の準備だけとなりましたが、学生と一緒に生活学科一同で取り組み、貴重な体験ができました。今後も地域とのつながりを深めることのできる機会を持ち続けていきたいです。



学校法人純美禮学園 法人本部報告

平成25年度決算状況

学校法人純美禮学園の平成25年度決算は、公認会計士の監査、学園監事の監査、理事会・評議員会の承認を得て、確定いたしましたので報告いたします。

消費収支計算書は、当該会計年度の消費収入、消費支出の内容及び均衡の状態を明らかにし、貸借対照表は、本学園の年度末の資産状況を明らかにするものであります。

消費収支計算書

1. 消費収入の部 単位：千円

科 目	年 度	平成25年度決算額
学生生徒等納付金		1,138,270
手数料		36,855
寄付金		10,167
補助金		440,023
資産運用収入		35,682
資産売却差額		1,500
事業収入		5,731
雑収入		100,837
帰属収入合計 (A)		1,769,065
基本金組入額合計 (B)	△	79,853
消費収入の部合計 (C)		1,689,212

2. 消費支出の部

人件費	1,224,842
教育研究経費	403,619
管理経費	94,831
借入金等利息	3,777
資産処分差額	1,024
消費支出の部合計 (D)	1,728,093

3. 消費収支差額

収支差額 (C) - (D)	△	38,881
前年度繰越消費支出超過額		1,965,085
基本金取崩額		10,985
翌年度繰越消費支出超過額		1,992,981

貸借対照表

単位：千円

科 目	年 度	平成25年度末
資 産 の 部	固定資産	[4,364,990]
	有形固定資産	(2,997,188)
	土地	333,352
	建物	2,110,178
	構築物	60,835
	機器備品	215,608
	図書	271,720
	車輛	5,495
	その他の固定資産	(1,367,802)
	引当特定資産	1,367,056
	電話加入権他	746
	流動資産	[676,008]
	現金預金	542,235
	未収入金	130,187
	前払金他	3,586
負 債 の 部	資産の部合計 (A)	5,040,998
	固定負債	[414,889]
	長期借入金	169,860
	退職給与引当金	245,029
	流動負債	[313,169]
	短期借入金	35,530
	未払金	22,300
	前受金	232,047
	預り金	23,292
	負債の部合計 (P)	728,058
基本金 (C)		6,305,921
消費収支差額 (G)		△ 1,992,981
(P) + (C) + (G)		5,040,998

滋賀短期大学教育研究充実基金・受配者指定寄付金 寄付報告

平成26年5月13日から11月22日までの間に滋賀短期大学教育研究充実基金に13件のご寄付を賜りました。ここにご寄付を賜りました方々のご芳名を掲載させていただき、感謝の意を表します。

森 和幸様・南雲 厚子様・高橋 義昭様・持田 昭男様・高野 繁樹様・宮川 秀樹様・西川 啓三様
中野 寿人様・須佐美富雄様・河島 郷行様・圓山 貴子様・伴 千之様・多田 幹子様 (順不同)

この度、関西明装株式会社様から受配者指定寄付金として100万円のご寄付を賜りました。ここに披露し感謝の意を表します。

短期大学行事等開催状況（平成26年6月～平成26年11月）

（総務課に届け出のあったものの一部を掲載しています。）

6月 1日(日) 教育懇談会 5日(木) 教授会 7日(土) 公務員対策模擬試験 11日(水) 教員対象入学試験説明会（京都会場） 12日(木) 教務委員会、学生支援委員会、広報・図書委員会、学生募集委員会、自己点検・評価委員会第4部会 14日(土) 夏のオープンキャンパス 17日(火) 教員対象入学試験説明会（草津会場） 18日(水) 新入生歓迎体育大会（県立体育館） 19日(木) 教員対象入学試験説明会（本学会場）、企画委員会 20日(金) 教員対象入学試験説明会（彦根会場） 21日(土) 幼2回生水曜日授業（6月4日代替） 22日(日) 消防設備点検 26日(木) 科会 28日(土) リーダーズ・トレーニングⅠ	9日(火) ステップアップ講座（中国語） 10日(水) ステップアップ講座（書道） 11日(木) 学生募集委員会、人事委員会、教授会、学生支援委員会 13日(土) AO入試事前面談（Ⅲ期） 14日(日) AO入試事前面談（Ⅲ期） 16日(火) 施設・児童館実習連絡協議会、ステップアップ講座（陶芸）、入学試験委員会 17日(水) リーダーズ・トレーニングⅡ、前期成績交付、Ⅱ教務オリエンテーション 18日(木) 前期再試験、自己点検・評価統轄委員会、広報・図書委員会、企画委員会 22日(月) 後期授業開始 25日(木) 科会 27日(土) ITパスポート対策講座 27日(土) 家庭的保育推進事業基礎研修・現任研修（主催：滋賀県保育協議会） 30日(火) 9月卒業式、ステップアップ講座（陶芸・中国語）
7月 3日(木) 教授会、Ⅰ回生教務オリエンテーション 5日(土) 保育内容表現発表会 10日(木) 教務委員会、学生支援委員会、広報・図書委員会、学生募集委員会 12日(土) 公務員対策模擬試験、幼2回生金曜日授業（6月6日代替） 13日(日) 公務員対策模擬試験 17日(木) 補講日、幼2回生木曜日授業、企画委員会、人事委員会、教学マネジメント部会 18日(金) 補講日 19日(土) 夏のオープンキャンパス 21日(月) （祝日）月曜日授業 23日(水) 中間監査 24日(木) 科会、事務職員会議（SD） 26日(土) 家庭的保育推進事業基礎研修・現任研修（主催：滋賀県保育協議会） 28日(月) 前期定期試験（8月1日(金)まで） 31日(木) 教務委員会	10月 2日(木) 教授会、国際交流委員会、教学マネジメント部会 3日(金) 学園事務連絡会議 4日(土) コミュニケーション検定対策講座 6日(月) コミュニケーション検定対策講座 7日(火) ステップアップ講座（中国語）、新任教職員ガイダンス① 8日(水) 新任教職員ガイダンス② 9日(木) 教務委員会、学生支援委員会、広報・図書委員会、学生募集委員会 11日(土) 指定校・専門高校対象・特推・SPⅠ期・AO試験日、留学生交流会 12日(日) 公募制推薦（前期）試験日 14日(火) 教養講座、入学試験委員会 15日(水) 新任教職員ガイダンス③ 16日(木) 防災訓練、臨時教授会、企画委員会、公務員講座 17日(金) 教養講座 18日(土) 公務員講座、ITパスポート対策講座、コミュニケーション検定対策講座 18日(土) 家庭的保育推進事業基礎研修・現任研修（主催：滋賀県保育協議会） 20日(月) コミュニケーション検定対策講座 21日(火) ステップアップ講座（中国語） 23日(木) 科会、公務員講座 25日(土) ITパスポート対策講座、コミュニケーション検定対策講座、公務員講座 28日(火) ステップアップ講座（中国語） 30日(木) 公務員講座 31日(金) B検ジョブパス講座
8月 2日(土) AO入学試験事前面談日（Ⅰ期） 3日(日) AO入学試験事前面談日（Ⅰ期） 4日(月) 夏期休業（9月19日(金)まで） 5日(火) 入学試験委員会 6日(水) こどもの講座（陶芸・書道・英語）、ステップアップ講座（書道） 7日(木) こどもの講座（英語・フラワーアレンジ） 9日(土) 滋賀医科大学との共催公開講座 9日(土) 家庭的保育推進事業基礎研修・現任研修（主催：滋賀県保育協議会） 10日(日) 夏のオープンキャンパス ※台風のため中止 19日(火) ステップアップ講座（パン） 20日(水) こどもの講座（陶芸・書道）、ステップアップ講座（書道）、滋賀県教育委員会との大学連続講座 21日(木) 健康診断、企画委員会、教学マネジメント部会、臨時教授会、学内研究会、ステップアップ講座（銅版画）、滋賀県教育委員会との大学連続講座 22日(金) ステップアップ講座（パン・銅版画） 23日(土) 夏のオープンキャンパス 24日(日) 家庭的保育推進事業基礎研修・現任研修（主催：滋賀県保育協議会） 25日(月) ステップアップ講座（パン・銅版画） 26日(火) ステップアップ講座（銅版画） 27日(水) こどもの講座（陶芸・書道）、ステップアップ講座（書道・パン・銅版画） 28日(木) P検対策講座 29日(金) AO入試事前面談（Ⅱ期） 30日(土) AO入試事前面談（Ⅱ期）	11月 1日(土) ITパスポート対策講座、公務員講座、医療保険請求事務実技試験 3日(月) （祝日）月曜日授業 6日(木) 教授会、公務員講座、教学マネジメント部会 7日(金) 午後 純美祭準備 8日(土) 純美祭、オープンキャンパス 9日(日) 純美祭、ホームカミングデー、オープンキャンパス 10日(月) 午前 純美祭後片付け、人権委員会 13日(木) 教務委員会、学生支援委員会、広報・図書委員会、学生募集委員会、公務員講座 14日(金) B検ジョブパス講座 15日(土) ITパスポート対策講座、B検ジョブパス講座、公務員講座 15日(土) 家庭的保育推進事業基礎研修・現任研修（主催：滋賀県保育協議会） 19日(水) 地域移動講座（高島市）、人権学習会 20日(木) 企画委員会、公務員講座、教学マネジメント部会 21日(金) コミュニケーション検定対策講座 22日(土) ITパスポート対策講座、B検ジョブパス講座 24日(月) （振替休日）月曜日授業 27日(木) 科会、公務員講座、事務局職員会議 28日(金) 保育所連絡協議会、コミュニケーション検定対策講座 29日(土) 公募制推薦（後期）・SPⅡ期試験日
9月 1日(月) 全国私立短期大学体育大会（東京都他、9月4日まで） 2日(火) ステップアップ講座（陶芸・中国語）、入学試験委員会 3日(水) ステップアップ講座（書道） 4日(木) ステップアップ講座（陶芸）、人事委員会、自己点検評価委員会	

KDKファッショングランプリ 「染織新報社賞」を受賞して

生活学科 生活クリエイトコース 1回生 坪田 恵里花

今年のテーマは「耀よう道」でした。そこで結婚式のvirgin roadをイメージし、ウェディングドレスを製作しました。私がファッションデザイン実習を履修したのは、オープンキャンパスで見た先輩の深紅のドレスに憧れたからです。作品は何点でも応募出来たので、パーティードレスもデザインしました。こちらは佳作に選ばれました。締切りに間に合わせて二着のドレスを完成させるのは大変で、夏休み中も登校して頑張りました。思い通りの作品が出来上がった時、それまでの苦労は達成感と大きな喜びに変わりました。二作とも受賞できた感動は忘れられません。今回の経験を活かして、来年もコンテストに応募したいと思います。



留 学 生 行 事

国際交流委員 准教授 深尾 秀一

10月11日(土) 留学生等日本文化研修として、学生5名が大津祭・宵宮を見学しました。当日は公益財団法人 大津市国際親善協会のガイドボランティアの方に、曳山展示館、各曳山、天孫神社など、随所で大津祭の説明をしていただきました。また、見学の途中では和菓子屋の藤屋内匠さんのご厚意でお茶と粽をいただき、食の文化体験もできました。今回は、「短大のある地域の文化を学び親しむ」という事で

大津祭を研修対象としました。当校にて留学していればこそ体験できる地域文化として、学生は楽しみながらも様々なことを学び感じ取ったようでした。

来年度も留学生にとって魅力あふれる研修をと考えております。



フランス公演報告

幼児教育保育学科 准教授 柚木 たまみ

《京とりこ》パリ公演、無事終えてまいりました！

ソプラノ：筆者・フルート：西村美香・ピアノ：あべ（中尾）ありか（本学非常勤講師）の3人からなるトリオユニット《京とりこ》。メンバー全員がヨーロッパ留学経験を持つことから、パリでもおもしろい演奏会を開こうと計画が進みました。

プログラムのテーマは「花鳥風月」。フランスに影響を受けた邦人作曲家と日本に影響を受けたフランス人作曲家の作品を4つのカテゴリーに分け、東西の“四季を愛でる jouer de la saison” 音楽を楽しんでももらいました。曲間に挟んだフランス語での説明も相まって、聴衆は興味深く受け止めてくれたようです。

パリ公演翌日には、ブルターニュ地方の高級避暑地ディナールでも演奏会の機会をいただきました。この地はドビュッシー

が交響詩「海」を作曲した地、また、会場の私邸はヴィクトル・ユゴーが住んでいたとか！貴重な経験をさせていただいた感動の日々でした。ぜひ、海外公演第二弾を実現させたいものです。

パリ公演 2014年9月12日

於：パリ・リュクサンブール改革派教会



人 事 の 異 動

退 職

(平成26年7月31日付) 嘱託職員
(平成26年9月30日付) 准教授

茂 木 麻 由
森 みどり

配置換え

(平成26年10月1日付) 入試広報課長 吉 田 英 史 (総務課長)
総務課長補佐 中 村 治 重 (入試広報課長補佐)

採 用

(平成26年9月1日付) 嘱託職員
(平成26年10月1日付) 准教授
嘱託職員

中 村 仁 美
土 屋 靖 明
芝 歩 美